

令和 5 年 10 月 24 日現在

機関番号：36201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11911

研究課題名（和文）スウェーデンにおけるSOGIに基づく差別の撤廃、人権保護や擁護等に関するとりくみ

研究課題名（英文）Swedish efforts to eliminate discrimination based on SOGI and to protect and advocate for human rights

研究代表者

大山 治彦（Oyama, Haruhiko）

四国学院大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：70321239

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）： スウェーデンにおけるSOGIに基づく差別の撤廃および人権の保障や擁護などに関するとりくみ、具体的にはオンブズマンとHBTQ認証について、調査研究によって、以下のことを明らかにした；
1) 平等オンブズマンとその前身である性的指向を理由とした差別反対オンブズマンの組織、活動、意義、2) LGBTQ人権団体RFSLによる「HBQTI認証」、およびヴェストラヨータランド・レギオンによる「Hbtq証書」にの概要、3) RFSLの認証を取得した組織の実際の効果を事例から分析。

研究成果の学術的意義や社会的意義

SOGIに基づく差別の解消や人権の保障、擁護に関する研究は、わが国では未だ蓄積の少ない分野である。本研究は少なからず、それに資するものといえる。

SOGIに基づく差別の解消や人権の保障、擁護におけるスウェーデンのとりくみ、具体的にはオンブズマン制度、およびHBTQ認証は、わが国にも大いに参考となる。オンブズマンの強制力のあるしくみと、教育や情報提供などの予防策の併用に効果がある。また、HBTQ認証は、SOGIに敏感な視点を獲得するものであり、LGBTQ+が働く職場環境や、LGBTQ+の顧客への接遇の改善に有効な方法の一つといえる。

研究成果の概要（英文）： Swedish efforts to eliminate discrimination based on SOGI and to ensure and protect human rights, specifically, research on the Ombudsman and HBTQ certification revealed the following; 1) organization, activities and significance of the Equality Ombudsman and its predecessor, the Ombudsman against Discrimination on the Grounds of Sexual Orientation, 2) overviews of "HBQTI certification" by "RFSL", an LGBTQ human rights organization, and "Hbtq-diplomering" by Region Vastra goetaland, 3) the actual effects of organizations that got the certification of RFSL from case studies.

研究分野：ジェンダー、セクシュアリティ

キーワード：SOGI LGBTQ オンブズマン スウェーデン RFSL HBT認証 人権 差別

1. 研究開始当初の背景

わが国において実現可能な、SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) に基づく差別の撤廃および人権の保障や擁護などに関するとりくみは、どのようなものであろうか。

SOGI とは、2016 (平成 28) 年以降、国連をはじめ世界において、急速に使用されるようになった概念である。これは、性指向や性自認について、すべての人がもつ属性として位置づけるものである。そのため、SOGI に基づく差別の撤廃および人権の保障や擁護などに関するとりくみは、LGBTQ+ などの特定の人たちの問題とするのではなく、すべての人たちに関わる問題として、再編されることとなった。また、これは学術研究が、無意識のうちに含んでいるヘテロセクシズムやシスジェンダー (cisgender) 主義というべき視角の相対化を要求するものである。

本研究では、こうした SOGI 概念の意義を踏まえ、スウェーデンにおける SOGI に基づく差別の撤廃および人権の保障や擁護などに関するとりくみについて明らかにし、わが国におけるとりくみの可能性を提示したい。

2. 研究の目的

本研究の目的は、スウェーデンにおける SOGI に基づく差別の撤廃および人権の保障や擁護などに関するとりくみについて、調査研究によって明らかにし、わが国における政策や施策、市民活動などへの展開の可能性について、考察することである。具体的には、スウェーデン政府の「平等オンブズマン」(その前身の 1 つである「性指向オンブズマン」を含む) と、民間非営利団体で HBTQ+ (LGBTQ+) の人権団体である「RFSL」によるとりくみを、主な研究対象とする。

3. 研究の方法

文献研究と調査研究を実施した。調査研究の概要は、次の通りであった。

- 1) 平等オンブズマンにおいて、SOGI に基づく差別を担当している職員等への面接調査、および施設見学。2018 年 9 月 7 日実施。ストックホルム。
- 2) 性指向オンブズマンの中心的存在であった Hans Ytterberg 氏への面接調査。2018 年 9 月 7 日実施。ストックホルム。
- 3) RFSL の代表である Sandra Ehne 氏への面接調査、および施設見学。2018 年 9 月 10 日実施。ストックホルム。
- 4) ヴェストラヨータランド・レギオン (広域的な地方自治体) において、「Hbtq 証書」を担当している「性の健康に関する情報センター」の職員への面接調査と、施設見学。2019 年 9 月 6 日実施。ヨーテボリ。
- 5) LGBT の全国組織 (NGO) である RFSL が発行している「HBTQI 認証」を取得したソルナ市立中央図書館の職員への面接調査、および施設見学。2019 年 9 月 9 日実施。ストックホルム。
- 6) 同南ストックホルム精神医療センター (グローベン気分障害治療センターとグローベン・ヤングアダルト治療センター) の職員への面接調査、および施設見学。2019 年 9 月 10 日実施。ストックホルム。

4. 研究成果

- (1) 平等オンブズマンのとりくみについて、その概要や活動の実際について明らかにすることができた。かつて差別に関するオンブズマンは領域ごとに 4 つ存在していた。しかし平等オンブズマンに統合されたことにより、改善された部分があることがわかった。それは、まず新たに性自認や年齢などの領域もカバーされるようになったことや、差別が複数の領域におよぶケースに対して、ワンストップで総合的に、調査や救済などが行われるようになったことであった。
- (2) 1999 年から約 8 年間存在した性指向オンブズマンの組織や活動、その意義について、多くの知見を得ることができた。とりわけ、SOGI に基づく差別の撤廃、人権の保障や擁護等を専門に担当する機関が政府内に存在したことの意義についての理解を深めることができた。
- (3) 上記 2 つのオンブズマンへの調査結果などから、今後のわが国における SOGI に基づく差別の撤廃、人権の保障や擁護などに関するとりくみへの示唆を得ることができた。
- (4) LGBTQ+ の当事者団体である RFSL について、そのミッション、組織や歴史などについて、理解を深めることができた。とりわけ、LGBTQ+ が可視化されているがゆえに生じる新しい問題、すなわち、ヘイトクライムやエスニシティによる格差などについて、認識することができた。
- (5) RFSL による「HBQTI 認証」、およびヴェストラヨータランド・レギオンによる Hbtq 証書について、その概要などについて明らかにすることができた。

- (6) RFSL の HBQTI 認証を取得した機関への調査結果などから、HBTQ 認証は、認証取得のプロセスを通じて、職員が自分自身のもつ無意識のヘテロセクシズムなどに気づいたり、組織の運営やサービスのあり方を見直したりしているようであった。このように、認証は、組織や職員が SOGI に敏感な視点を獲得し、職場や接遇を改善するきっかけとなっていた。したがって、SOGI に敏感な視点を獲得しようとする、HBTQ 認証というツールは、わが国の行政などによる SOGI に基づく差別の解消に関する政策、施策などにも参考になると思われる。
- (7) 今後の課題は、上記の成果を踏まえ、さらに、SOGI に基づく差別を解消し、人権を保障、擁護するとりくみに関する研究を進化させることである。そのために、本研究では、実施することができなかった、下記の研究を実施したい。
- 平等オンブズマンが取り上げた、具体的な事案に関する詳細な分析。
 - ヴェストラヨータランド・レギオンの Hbtq 証書の認証を受けた機関などの調査。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大山治彦	4. 巻 35(1)
2. 論文標題 SOGIに敏感な視点による家族社会学に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大束貢生	4. 巻 73
2. 論文標題 地方自治体における男女共同参画事業の推進について（1） - 大阪府寝屋川市の審議会での議論から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佛教大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山治彦	4. 巻 106
2. 論文標題 スウェーデンの性教育のあゆみ - RFSUと義務教育を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大束貢生	4. 巻 73
2. 論文標題 地方自治体における男女共同参画計画策定をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大束貢生	4. 巻 71
2. 論文標題 日本における男性対象のジェンダー政策の可能性(1)男性対象の取り組みにもとづいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佛教大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山治彦	4. 巻 96
2. 論文標題 スウェーデン・レポート HBT認証-LGBTQの人たちが安心して利用しやすい施設へ-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 126-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大束貢生	4. 巻 69
2. 論文標題 日本における男性運動と男性対象のジェンダー政策の可能性：メンズリブを中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佛教大学社会学部論集	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山治彦	4. 巻 91
2. 論文標題 スウェーデン・レポート 性指向オンブズマン	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 132-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山治彦	4. 巻 94
2. 論文標題 スウェーデン・レポート フェミニズムの学校 - 女性国民高等学校 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 140-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山治彦	4. 巻 89
2. 論文標題 スウェーデン・レポート 平等オンブズマン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 132-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大山治彦・大束貢生・伊藤公雄
2. 発表標題 スウェーデンにおける性教育の発展とRFSUの役割
3. 学会等名 第95回日本社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SOGIに敏感な視点による家族研究 - 異性愛とシスジェンダーの脱普遍化 -
2. 発表標題 大山治彦
3. 学会等名 第29回日本家族社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大山治彦・大束貢生・多賀太・伊藤公雄
2. 発表標題 スウェーデンにおける「SOGI平等」へのとりくみ - スウェーデン教会とのかかわりにおいて -
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大山治彦
2. 発表標題 性暴力被害者としての男性
3. 学会等名 第23回日本ジェンダー学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山治彦・大束貢生・多賀太・伊藤公雄
2. 発表標題 スウェーデンにおけるSOGIに基づく差別へのとりくみ - HBTQ認証制度 -
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大山治彦・大束貢生・伊藤公雄・多賀太
2. 発表標題 スウェーデンにおけるSOGIに基づく差別へのとりくみ-平等オンブズマンと性指向オンブズマン-
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大山治彦
2. 発表標題 「結婚」、「同性婚」、「同性愛/異性愛カップル」などの用語を批判的に検討する～SOGIに敏感な視点を家族研究に取り入れる試みとして～
3. 学会等名 第29回日本家族社会学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伊藤公雄・多賀太・大束貢生・大山 治彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 228
3. 書名 男性危機 (メンズクライシス) ? : 国際社会の男性政策に学ぶ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

特になし

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大束 貢生 (Otsuka Takao) (20351306)	佛教大学・社会学部・准教授 (34314)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中澤 知恵 (Nakazawa Chie) (00272625)	東京学芸大学・教育学研究科・研究員 (12604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関